

「騎西城土塁跡」

市指定史跡 平成4年3月16日指定

60



問合せ
生涯学習課
(0480)62・1223



所在地 根古屋634-7

騎西(私市)城の名が初めて歴史に登場するのは、康正元(1455)年に古河公方足利成氏が騎西城を攻略したという記録です。

永禄6(1563)年以降、上杉謙信に2度攻め落されました。徳川氏により、松平康重、大久保忠常・忠職が2万石の城主となりますが、寛永9(1632)年に廃城となりました。

江戸初期に描かれた絵図を見ると、東に大手門を配し、二つの曲輪・天神曲輪・馬屋曲輪・二の丸と鉤の手状に構成され、本丸へ容易に攻

め込まれないような構造となつています。

廃城となつた後の衰亡は著しく、寛保年間(1741~1744)には本丸・二の丸の土塁が崩され、安政年間(1854~1860)に至ると城跡の竹林が開墾され、江戸末期にはほとんど畑となりました。明治・大正期には、県道が城跡を貫通した後の土塁はいっそう小さくなりました。

現在、土塁は、キャッスルきさいの東側に残るのみで、当時の姿を伝える西側の高い部分が本来の土塁(高さ約3m)です。東側の低い部分は、在りし日の騎西城をしのぶため、平成10年に復元延長されたものです。

